



民生委員100周年 記念碑を建立



7月14日、鹿屋中央公園で本市における民生委員制度創設100周年の記念碑除幕式が行われました。民生委員・児童委員とは地域住民の相談に応じて行政や専門機関へつなぐボランティアのことで、本市では現在218人が活動しています。式には関係者約25人が参列し、渡邊正人鹿屋市民生委員・児童委員協議会会長は「今後も資質向上に励み、地域のために尽くし続けたい」と述べました。

決意を胸に タンザニアの地へ



7月14日、JICA（国際協力機構）青年海外協力隊の久保太さんと関係者が市役所を訪れました。本市出身の久保さんはパソコンインストラクターとして、今年の8月から令和7年8月までの2年間、タンザニア連合共和国のプワニ職業訓練校に派遣されます。「不安もあるが、現地の人たちに実践的な教育ができるように精一杯努力したい」と決意の言葉を述べました。

鹿屋中央高校 熱戦の末 準優勝



7月23日、平和リース球場（鹿児島市）で「第105回全国高校野球選手権記念鹿児島大会」の決勝戦が行われ、鹿屋中央高校が神村学園と対戦しました。当日は球場に駆け付けた人々や、市役所でのパブリックビューイング参加者など多くの市民が見守る中、大接戦を展開。惜しくも甲子園出場を逃しましたが、最後まであきらめない球児の姿は多くの市民に感動を与えました。

課題こそヒント 地域づくりを学ぶ



7月20日、市中央公民館で「鹿屋市地域づくり講演会」が開催されました。これは、地域づくりの事例紹介を通じて住民一人ひとりに地域づくりを考えてもらうための講演会。講師を務めたNPO法人土佐山アカデミーの吉富慎作事務局長は「住民が地域以外の人を巻き込みながら地域課題を一緒に考えることで、さらなる課題解決や関係人口増加の糸口をつかむことができる」と語りました。

様々な測定で 健康度をチェック



7月12日・13日、県民健康プラザ健康増進センターで22周年開設記念イベントが開催されました。鹿屋市健康まつりも同日に開催され、脳年齢チェックやカメラを使用した姿勢チェック、笑いヨガ体験などが催されました。

濃厚な甘さ際立つメロン 全国販売の展望を語る



7月10日、有限会社サンフィールズの久木田敬一社長から令和5年産のメロンが寄贈されました。収穫したメロンは関東を中心としたコンビニ等で販売。また、鹿屋市農業公社（輝北町市成）の新たな研修品目としても期待されています。

豊かな心を育むために 絵本を寄贈



7月6日、おおすみハナマルシェから絵本が寄贈されました。同団体の隈崎和代代表は「絵本は子どもたちがうれしい・悲しいなどの感情を学ぶ大事なツール。ぜひ教育の現場で絵本を生かしてほしい」と語りました。